

# 1306年から1945年までににおける トゥアティエン・フエの手工業

グエン・ヴァン・ダン  
(新江利彦・西村昌也 訳)

Handicraft industry in Thừa Thiên Huế from 1306 to 1945

NGUYỄN Văn Đăng

(Translation by SHI'NE Toshihiko and NISHIMURA Masanari)

トゥアティエン・フエ地域は、1306年以降キン族が多く居住するようになった地域であるが、1558年の阮潢入府以降本格的な開拓・入植が進み、各村落形成と共に手工業も発達した。そして広南阮氏政権は職人を軍隊組織（匠局）として組織し、船、武器、金属製品などの生産を行わせている。阮朝期前半には、引き続き匠局、司などの組織を発展させ、フエ都城やその周辺には、各種工場を設け、造船、武器、青銅器（含銀）、工芸品の製造を行わせている。また、その影響や都城地域の経済的需要もあって、各集落で民間の手工業が専門化して、発展した。ただし、フエ都城域の経済規模の限界から、そうした手工業が、商業的理由で、大規模に発展するには至らなかった。

キーワード：手工業、広南阮氏政権（阮主）時代、阮朝、匠局、司、官廠

## 1. フエの自然、歴史、居住の特徴

ベトナム中部に位置し、北中部の南端にあるこの地域<sup>1)</sup>は狭いが、地理的に非常に多様である。チュオンソン山脈が西側を塞ぐ形で聳えており、東側に進むにつれ低くなっていく。それが3つの大河、香河、ポー（Bồ）川、オーラウ（Ô Lâu）川の水源地域を造り出している。この3つの川は狭い平野を流れている。京城の北部に、最も広い平野が香河とポー川に挟まれる形で広がっている（その地域は香茶 [Hương Trà] 縣にあたる）。一番大きな香河は、左沢と右沢の二つの源流を持つ。この二つの源流は比

1) Quảng Bình 省から Thừa Thiên-Huế 省は、文化・歴史的地域区分として“北中部”と呼ばれる。その中心であるトゥア・ティエン・フエ省は、現在、北緯16.6~16.45度、東経107~107.25度に位置する。

較的急流であるが、憑浪 (Bằng Lăng) にある合流点は海拔33メートルの地点であり、それ以降ゆるやかな流れとなっていく。どの川も海にたどりつく前に三江 (Tam Giang) 潟へ注ぐ。

南北をつなぐ千里の道の途中に位置するフェ、昔の順化 (Thuận Hóa)、は北側のガン峠と南側のハイヴァン峠という自然の壁を持ち、それらが北と南の両地域の明らかな交通の違いをつくりだしている。また、それらは同時に国内で最も湿度が高く、東北の風と共にやってきて時に大洪水を引き起こす台風を伴う寒い雨季と、南西の風を受ける厳しい乾季という気候条件をも生み出している。

狭くはあるが、山や平野があり、デルタ、潟、砂地、海岸があり、そしてそれらがたくさんの川の流れによって分断されていることがフェの地理的環境の特徴である。今も昔も、これらの多様な特徴は、フェに経済的利益はもたらしていない。深さと広さが充分な港はなかったし、清河 (Thanh Hà) と褒栄 (Bao Vinh) の川で発達した船着場も中世の帆掛け舟に適應する程度のものであった。しかし、この地理的環境は奇偉な風景や風水的要素を生み出し、軍人、政治家の思想を育てた。また、人々に自然の脅威に立ち向かって存続、発展していかなければならないという試練を与えることで、この地に住む人々の心理、文化を育ててきた。

歴史について言えば、フェは1945年まで、650年間のベトナムの歴史を持つ。独立国家を築く過程の中で、ベトナム人は南進を進めた。1306年の出来事により、順化<sup>2)</sup>の歴史は幕を開けた。順化は大越の領地であったにも関わらず、陳朝、胡朝、そして前黎朝の初期まで、大越とチャンパ間の紛争の火種であり続けた。

1471年の黎聖宗の遠征後、チャンパの大越侵攻は終息し、順化は安定を取り戻し、あらゆる面での発展が始まった。1555年に編纂されたこの地域の地誌『烏州近録』には、その変化の様子がはっきりと描写されている。

阮潢が1558年にこの地に入府すると、この地域は一層開発が進められた。広南阮氏は、この地を国家の一部として統治する新たな政治勢力として台頭し、対外対内共に優れた諸政策をとり、ダンジョン地方 (中・南部ベトナム) を多くの面で、ダンゴアイ地方 (北部ベトナム) に追いつくまでに発展させ、ベトナムという国の完成度を高めた。こうして順化はダンジョン地方の中心となったのである。

こうした背景の中、広南阮氏が自らの地盤を固める過程は、富春 (Phú Xuân) の形成の過程であるとも言える。クアンチ省の各地、愛子 (Ái Tử: 1558年)、茶鉢 (Trà Bát: 1570年)、葛営 (Dinh Cát: 1600年) に首府が置かれ、トゥアティエン-フェ省では、福安 (Phước Yên: 1626年)、金龍 (Kim Long: 1636年)、富春 (Phú Xuân: 1687年)、博望 (Bác Vọng: 1712年)、富春 (Phú Xuân: 1738年) に首府が置かれた。その後、富春は鄭氏の拠点 (1775年) となり、その後、西山王朝 (1788-1801年) の都となった。

1802年嘉隆帝が即位すると、阮朝は勢力を取り戻し、フェを全国の首都に選んだ。1802年から1858年まで、嘉隆帝に始まる各皇帝は中央集権国家を築き、国家経済を立て直し発展させる政策をとり、ベトナムを強靱な君主国家に築き上げた。トゥアティエン・フェには、全国のよき人材、腕の良い職人が集

2) 1306年、陳朝の玄珍公主がチャンパ国王制旻 (Ché Mân) に嫁いだ際、制旻は嫁下の代償として烏州と里州を大越に割譲した。1307年、烏州は順州、里州は化州と改められた。

まり、広く華やかな都の様相を造り上げた。フエの陵寢は今では世界遺産となっている。1858年から1896年にかけてはフランスの侵略の圧力を前に、維新運動と抗仏武装勢力の反抗が起こったが失敗に終わった。ベトナム社会はフランスの支配下に置かれ、フエは南朝（つまり阮朝）政府の京都でありはしたが、1945年までフランスによる植民地政権“東洋連邦”が駐留していた。

居住についていえば、各朝廷の領土拡大に伴い、大越の人々がこの新たな土地の主たる住人となった。チャム人の住む小さな一地域を除き、ベトナム人と山岳地帯に暮らす諸民族との混血が進み（その代表例が制旻の一族である）、また大越北部からの人々が定着し、彼らは、そこで開墾し新たな村落の設立を始めた。彼らは、朝廷に滞留を申し出た兵将であったり、陳、胡、黎、阮朝の移民政策によって移住してきた農民であったり、または新たな生計を立てようとやってきた人々、犯罪を犯し流刑に処された者であったりした。

19世紀後半までのトゥア・ティエン・フエの人口と村の数は以下（表1）の通りである。

この数字から、広南阮氏の時代に人口が増加したこと、そして多くの村が建設され、発展してきたことが伺える。広南阮氏の時代までに、この地域の村数は比較的安定していた。もし、新たな村が建設されたとすれば、その大多数は、昔からあった村が開拓を進め新たな村を築いた結果であった。これは、この地域ではよく見られる現象であった。

18世紀末から1945年にかけては、阮恵、阮映がフエへ引き連れてきた南方からの人々の流入があり、

表1 19世紀末までのトゥア・ティエン・フエの村数と丁数<sup>3)</sup>

年代	村数	丁数（人）	データ出典	
1417	79		撫辺雑録37頁	順化府
1490	188		撫辺雑録44頁	トゥアティエン-フエ省の3縣
1555	191		烏州近録21～24頁	トゥアティエン-フエ省の3縣
1773	340		撫辺雑録78～80頁	トゥアティエン-フエ省の3縣
1810-1818	354		地簿106頁	トゥア・ティエン・フエ
1819		50,300	大南一統志、嗣徳、一卷、119頁	トゥアティエン-フエ省とクアンチ
1853		68,540	大南一統志、維新、上巻、42頁	トゥアティエン-フエ省
1876		38,229	大南寔録、三十四巻、140頁	トゥアティエン-フエ省
1899	434	29,270	大南一統志、維新、上巻、42頁	トゥア・ティエン・フエ

表2 20世紀初頭のトゥア・ティエン・フエの人口

民族	1901	1904	1907	1913	1915	1918	1924	1928
キン（京）				200,000	191,268	227,650	242,225	252,000
少数民族				2,500	2,835	2,835	2,840	2,840
欧州人	153	200	200	168	225	150	314	360
華 僑	386	450	233	220	503	530	597	678
印 僑	5	11	13	15	6	13	23	30
明 郷				420	598			

出典：Annuaire General de l' Indochine

3) Nguyễn Văn Đăng (1998), “Dân số Thừa Thiên-Huế xưa và nay”, *Huế xưa & nay* 28, 55-59頁.

人口が増加した。その後、フランス植民地時代に、西洋の国（特にフランス）から、そして中国から大きな人口流入が起こった。結果、フェの人口構造は多様で複雑なものとなった（表2）。

人口増加が起こってから、広南阮氏の政策が功を奏し、順化、トゥアティエン・フェの経済活動は早急に発展した。その頃から、フェを中心とする都市部は商業都市となり、そこへ良質な人材、熟練工、外国人（特に華人）が集まり、暮らすようになった。トゥアティエン・フェは新たな発展の道をたどり、17世紀から1945年までのベトナムの政治的、軍事的そして経済的中心地となった。

## 2. 1306年から1945年までのトゥアティエン・フェの手工業

### 2.1. 1306年から1558年

1306年から1558年までは、陳朝、胡朝、後黎朝、莫朝は、大越の移民たちに新たな土地を開拓させる方法を模索していた。彼らは土地を開拓し、村を築き、阮潢が順化入りを果たす1558年までは、この地の居住状況はかなり落ち着いていた。1555年の『烏州近録』によれば、この時代のトゥアティエン・フェには、180の村から成る、金茶（Kim Trà）縣、丹田（Đan Điền）縣、思永（Tu Vinh）縣の3縣があった。

生活上の必要性から、農民たちは、農具や日用品を生産するためのダンゴアイ地方に起源を持つ技術を持っていたし、またチャンパ系住人の技術をも取り入れていた。桑の栽培、養蚕、紡織、竹編み細工、木工芸、陶器製造、網製造、鍛冶などの手工業が出現した。手工業の成り立ちは、村の形成過程と深く関わっている。16世紀になると、手工業は副業としてほとんどの村に出現していた。『烏州近録』（表3）によれば、180の村のうち27の工業村があったという。

以上に挙げたものは最も主要な手工業であり、全てではない。例えば、桑栽培と養蚕、絹紡織などの

表3 16世紀中頃のトゥア・ティエン・フェの工業村（『烏州近録』より）

	村	手工業		村	手工業
1	華琅 (Hoa Lang)	鍛冶	15	塩場 (Diêm Trường)	造船
2	苞羅 (Bao La)	編み細工	16	奉政 (Phụng Chánh)	造船
3	博望 (Bác Vọng)	魚とりの竹ザル製造	17	新蘭 (Tân Lan)	鍛冶
4	守禮 (Thủ Lễ)	魚網製造	18	懷材 (Hoài tài)	鍛冶
5	扶南 (Phù Nam)	絹紡織	19	新頼 (Tân Lai)	酒造
6	良古 (Lương Cổ)	紙製造	20	牧州? (Mục Châu)	紅花栽培
7	瑞雷 (Thụy Lôì) 富春 (Phú Xuân)	網製造、糖蜜製造	21	琅州 (Lang Châu)	絹紡織
8	永固 (Vĩnh Cố)	模様絹紡織	22	舒志 (Thư Chí)	短布紡織
9	勇敢 (Dũng Cảm) 福積 (Phước Thích)	土器製造	23	楽弩 (Lạc Nô)	粗布紡織
10	萬化 (Vạn Hóa)	糖蜜	24	敢決 (Cảm Quyết)	陶器製造
11	陽春 (Dương Xuân)	漁業	25	粘扶 (Niêm Phò)	絹粗糸紡績
12	水畔 (Thủy Bận)	漁業	26	世頼 (Thế Lại)	磁器などの食器 (販売)
13	懷材 (Hoài Tài)	墨製造	27	頼恩 (Lại Ân)	磁器などの食器 (販売)
14	青藍 (Thanh Lam)	紙製造			

手工業はどこにもあったと思われる。しかし、180の村のうち、27しか手工業村がないのは少なすぎるということと言える。

## 2.2. 広南阮氏の時代（1558～1788年）

### 2.2.1. 民間手工業

広南阮氏の諸政策の下、農民は開墾に勤しみ耕作面積を広げ、農業は発展した。またダンゴアイ地方から取り入れた技術を以って、新たな工業も生まれてきた。

広南阮氏はトンキン湾地域からの逸脱を目指しており、トゥア・ティエン・フエをダンジョン地方の首都に、富春を経済の中心地に、港町である清河を商業の中心地に築き上げようとした。このことが手工業の発展を大きく促進し、村という範囲を越えた多くの手工業村の出現をもたらした。

その中に、農業とは別の、専門的な性格を持つ手工業もあった。例えば福積（Phước Thích：旧名敢決）陶器村、賢良（Hiền Lương：旧名華琅）鍛冶村、仙嫩（Tiên Nộn：旧名新嫩）漆村などのように、村人が田畑を持たず、特定の製品を専門的に生産している村があった。分業が進むにつれて、多くの手工業

表4 18世紀のトゥア・ティエン・フエにおける手工業村

	村	手工業		村	手工業
1	扶宅 (Phù Trạch)	ゴザ製造	25	越洋坊 (Việt Dương)	酒酵母
2	朝山 (Triều Sơn)	笠製造	26	扶頼 (Phù Lai)	酒造
3	篤初 (Đốc sơ)	紙製造	27	西城 (Tây Thành)	酒酵母製造
4	魚網坊 (Phường Ngư Vông)	陶器の壺製造	28	隆湖 (Long Hồ)	さとうきびから砂糖製造
5	鑄坊 (Phường Đúc)*	青銅製の銃、鍋、釜、焼鍋、蜀台の足製造	29	新館 (Tân Quán)	白砂糖、黒砂糖製造
6	富春 (Phú Xuân)	炭製造	30	新美坊 (Phường Tân Mỹ)	白砂糖、黒砂糖製造
7	鞆池 (Vông Trì)	鋤、甲冑、錐、斧、鑄造	31	慶美 (Khánh Mỹ)	塩製造
8	茂材 (Mậu Tài)	紐状の真鍮、鉄鋼、菓子製造	32	塩場 (Diêm Trường)	塩製造
9	安留 (An Lưu)	磨製武器、紡織	33	奉政 (Phụng Chính)	塩製造
10	野犁 (Dã Lê)	船の幌、篩	34	河清 (Hà Thanh)	塩製造
11	府柑 (Phủ Cam)	絹紡織	35	仙嫩 (Tiên Nộn)	漆、金箔
12	山田 (Son Điền)	錦繡、ガス織、サテン、錦紡織	36	頼恩 (Lại Ân)	茅
13	陽春 (Dương Xuân)	錦繡、ガス織、サテン、錦、絹紡織	37	土瓦 (Xóm Ngõa)*	磚製造
14	萬春 (Vạn Xuân)	錦繡、ガス織、サテン、錦、絹紡織	38	清先 (Thanh Tiên)	紙の花製造
15	富春 (Phú Xuân)	錦、赤絹紡織	39	楽奴 (Lạc Nô)	紡織
16	同寅 (Đồng Di)	短布紡織	40	地霊 (Địa Linh)	紡織
17	楊弩 (Dương Nỗ)	短布紡織	41	美利 (Mỹ Lợi)	編紐、真綿製造
18	軍魯 (Quan Lỗ)	短布紡織	42	苞羅 (Bao La)	編み細工
19	安留 (An Lưu)	白絹紡織	43	Chợ Cống	糸製造
20	広安 (Quảng Yên)	帽子製造	44	金龍 (Kim Long)	紡織
21	羅溪 (La Khê)	菓子製造	45	福積 (Phước Thích)	陶器製造
22	知礼 (Tri Lễ)	菓子製造	46	Phủ Bài (符牌)	鉄鍊鍛
23	賢良 (Hiền Lương)	帽子製造、鍊鍛	47	Phủ Ân	砂金の選り分け
24	蓋来 (Vu Lai)	酒造	48	南浦 (Nam Phố)	砂金の選り分け

の専門化が進んだ。分業とは、つまりそれぞれの作業者が生産の一工程しか担わないというものだ。民間手工業職人はダンジョン地方の各地、特に嘉定（Gia Định）で販売するための製品を生産し始めた。

その他、広南阮氏の下で手工業品生産管理単位である司、隊なども存在し、その中には外国人鑄造工<sup>4)</sup>も含まれ、時計の製造法を学び取った工人も含まれていた。香河のほとりに金龍府が築かれるのと同時期の1636年、清河港町が出現し、地域内の手工業品や農産品が集められ、国内各地や外国と交易が行われた。当時は、ジャンク船による交易が行われていた。

もし16世紀中頃にトゥア・ティエン・フェに上記のような27の手工業村があったとすれば、手工業村は18世紀末までに48村に増えたことになる（表4：『撫辺雑録』より）。その中には、広南阮氏に奉仕していた村もある。（表中で、このような村に\*を記す）

### 2.2.2. 広南阮氏の手工業

広南阮氏の手工業職人は、職人である以前に兵士である。（兵士職人と呼ばれる）。釈大汕（Thích Đại Sán：17世紀末に渡越した中国人僧）によると、「国内には100種ほどの工業があるが、それらはどれも軍人によるものである。毎年軍人が各村に出向き、16歳以上の健康な民を徴集する。彼らはまず入隊し兵役を経て、その後は職業訓練を受ける<sup>5)</sup>。」彼らこそが広南阮氏直属の工場で働く労働力であった。しかし、質の高い製品を生産するため、広南阮氏は順廣の腕の良い職人を富春に呼び寄せる制度もつくった。兵士職人と熟練工は兵の階級に従って組織される。福安と金龍に府を置いた時（1626～1687年）、阮氏は陽春（Dương Xuân）村（フォン河沿い）の一部を徴用し、朝廷の土地として広南阮氏の管理下におく。地簿の中でこの土地を官房舎府<sup>6)</sup>と呼ぶ。」このような場所が主要な工場建設地であり、これが後の鑄坊の前身である。手工業職人はその職種によって分けられ、それぞれの職種を司、または隊と呼んだ。すべての職種は、匠局（表5）と呼ばれ、以下のようにまとめられる。

この表から、富春に集められた職人は少なくとも37職種に渡り、約900人いたことが見て取れる。この中で鍛冶、武器鑄造、造船、瓦製造に関する匠局に最も職人が多い。逆に、数人しか所属しない職種もあり、彼らは司、隊、局などに分類されない。

管理組織システムについては、どの匠局も相弟子（直接雇用の職人）以外に、職長（匠目）と管理隊伍（正司官、司官、守合）がいるが、人数は一定ではない。この隊伍が国家と職人との仲介の役割を果たしている。富春の正営の組織システムの中では、匠局の上に令史司圖家が存在し、匠局を管理している。1744年の行政組織改革によって六部が構成され、その中の兵部と工部によって匠局は管理されていた<sup>7)</sup>。

4) この外国人鑄造工はポルトガルとインドの混血の父子である。父は Jean De La Croix、子は Clement De La Croix。二人は、1661年に鑄坊集落にやってきて働いた。Cadière, L., "Les quaties des Arènes: Jean de la Croix et les premiere Jésuites", *BAVH* 4, pp. 307-332頁.

5) 釋大汕『海外記事』：引用はベトナム語訳本『*Hài ngoại kỳ sự*』, Ủy ban phiên dịch sử liệu Việt Nam, Viện Đại học Huế, 1963, 43頁.

6) Nguyễn Hữu Thông, "La Coorporation des fondeurs de Huế", *Étudé Vietnamiennes*, nouvelle série, No.6, pp.70-85頁.

7) Nguyễn Hữu Thông, *Huế nghề và làng nghề thủ công truyền thống*, NXB Thuận Hoá, Huế, 1994, 33頁.

表5 富春における広南阮氏時代の各匠局<sup>8)</sup>

	匠局名あるいは、その生産物名	人数	注釈	頁
1	鑄匠司	60	Kim Nhon 集落、Bông Bộ 集落	325
2	内銃匠司	40	Hàng Giang 村	325
3	左銃匠隊	50		189,325
4	右銃匠隊	50		325
5	治匠司	58		325
6	漆匠司（2 隊）	61		189,321
7	治器械匠司	6		189
8	染紫梗司	9		189
9	属司瓦一船	40	塼製造。“船”とは軍隊の最も小さな単位で、兵士30~100人から成る)	189
10	属司瓦二船	40		189
11	鞍馬匠	2		189
12	火攻匠司	8		189
13	火輪匠	2	水船	189
14	安木船司	56		189
15	康木船木匠司	56		189
16	果難匠	4	食べ物を入れる入れ物	189
17	船匠司	21		190
18	叩馬匠	4	鞍の部分	190
19	全象司	40		190
20	助子匠	3		190
21	内扇匠司	7		190
22	璇象匠司	3		190
23	内房醫隊	12		190
24	叟獵隊	31		190
25	内誘銃匠	1		190
26	内紅花匠司	2		190
27	内鉦錠撥	1		190
28	鉗匠司	4	アルカリ？	190
29	象奇良醫	4	広南阮氏のための製薬	190
30	内銀匠司	—	銀製造	221
31	内金湘局	—	金製造	221
32	奇左中、奇右中	—	銀製造	190
33	内錫匠司	10		326
34	木炭隊	195		325
35	耳匠	—		325
36	銅壺（時計）と千里鏡の匠 <sup>*9)</sup>	1	時計と望遠鏡	328
37	貨幣鑄造*	—		221
	総数	881		

官廠の活動については、Li Tana がダンジョン地方の軍事力、貨幣と商業についての論文の中で触れている。広南阮氏は武器、造船、宮府日用品と貨幣鑄造を担う工廠に多くの関心を払っていたことが見受けられる。軍事的需要から、広南阮氏は武器の鑄造、製造に力を入れている。金龍宮府の向かい側に位置する鑄坊では、1631年まで3つの大きな銃鑄造工廠があった（内砲匠、左砲匠、右砲匠）。そこで働く職人は最も多いときで140人にも及んだ。広南阮氏の主要な武器であった大炮は、ある外国人に「広南阮

8) 黎貴惇『撫邊雜錄』, 翻訳版: *Lê Quý Đôn toàn tập, Tập I: Phủ Biên tạp lục*, Nxb Khoa học xã hội, Hà Nội, 1977.

氏は1200口の大砲を有している。全て銅製である……様々な大きさのものがある……これらの大砲が造られたのは1650年から1660年である」と評された<sup>10)</sup>。ポルトガル人父子 Joao da Cruz は鑄坊に定住し、鑄造技術の責任者となった。

造船については、工廠が香河の両岸に集中している。「正営の上流や下流域には軍人の家が碁盤の目のように並んでいる。造船工廠と粉庫は河溪村と寿康村にある<sup>11)</sup>。」その数に関してはダンゴアイ地方ほど多くはないが、技術的な質に関してはダンジョン地方の船も決して劣りはしないと A. de Rhodes と T. Bowyear も認めている。1674年に広南阮氏は、直属の工廠で造られた133隻もの船を有していた<sup>12)</sup>。

また、阮氏は貨幣鑄造と官府日用品にも注力していた。1725年の阮福澍（1725～1738年）の時代には、銅製の貨幣が大量に鑄造された。「丙寅、丁卯、戊辰（1746～1748年）の3年間で73,396貫鑄造した<sup>13)</sup>。」古銭学者によると、1736年には青銅銭において43の年号が、1746年には亜鉛銭において57の年号が存在している<sup>14)</sup>。貨幣に記された年号は、中国、ベトナムの年号（北部黎朝のもの）、またはまだ歴史にないものもある。広南阮氏は自らの年号を持たなかった。貨幣の市場での流通は非常に複雑だった。阮氏の通貨のほかに、中国の通貨、日本の通貨、ダンゴアイ地方の通貨、莫天賜の小さくて薄い通貨、そして西欧の通貨、さらに民間で鑄造された偽造通貨（100以上の鑄造所にも及んだ）などがあった。このことがダンジョン地方での通貨危機を引き起こしたことが、Ngô Thé Lân と P. Poivre によって記述されている。そしてこれは18世紀中頃からのダンジョン地方の衰退の一要因でもある。

宮廷内の日用品、塼は宮廷の装飾のために生産された。二つの鑄造司（それぞれ30人ずつ所属、銅製品や釜を鑄造）と錫司は多くの有名な製品を産み出した。他にも、オランダで2年間技術を学んだ阮文誘（Nguyễn Văn Tú）は、西欧風の時計を作ることができ、広南阮氏に奉仕した。

順化の土地に新たな政治勢力である広南阮氏の官廠が出現し、それは厳重に組織され、多くの製品を生み出し、軍事目的と新たな朝廷の装飾目的に多大な効果を発揮した。広南阮氏の官廠には、武器鑄造、造船、などの分野において西欧からもたらされた新しい技術が取り入れられた。当時の官廠が広南阮氏と共にダンジョン地方に与えた影響は非常に大きいことがわかる。

以上要約すると、トゥア・ティエン・フェの手工業は、18世紀末までにベトナム全土の手工業の水準と同程度になるまでに発展を遂げていた。

- 専業手工業が有名な民間工業村と共に出現し、鑄坊に国家の匠局が集中していた。手工業製品の流通により、農村の中での手工業という伝統的な自給自足形態が崩壊した。
- いくつかの職種において、工程ごとに生産を行う専業化という現象が起きた。一人の職人が製品の最初から最後まで作り上げるのではなく、生産過程の一工程のみを担うというものである。
- 職種数、工業村数は増加し、活動の場も一地方からダンジョン地域内の多数の地方へと広がった。

9) 訳者注：\*については、それらへの言及はあるものの『撫邊雜録中』での具体的職人組織名を確認できていない。

10) Li Tana, *Xứ Đàng Trong, Lịch sử kinh tế-xã hội Việt nam thế kỷ 17-18*, Nxb Trẻ, Tp Hồ Chí Minh, 1999, 63頁。

11) 黎貴惇『撫邊雜録』, 前出, 112頁。

12) Lê Đình Cai, 1971, *34 năm cầm quyền của chúa Nguyễn Phúc Chu (1691-1725)*, Đăng Trình xb, Huế, 98頁。

13) 黎貴惇『撫邊雜録』, 前出, 237頁。

14) Nguyễn Anh Huy, "Tiền tệ thời chúa Nguyễn", *Kỷ yếu HTKH 690 năm Thuận Hoá-Thừa Thiên Huế*, Huế.



そして、清河港と会安港から製品は出荷された。

## 2.3. 阮朝（1802～1945年）

### 2.3.1. 国家の手工業<sup>15)</sup>

#### 2.3.1.1 発展過程

阮暎（1777～1802年）は南部にいる間に、62の職種の司をつくり、大きな造船工場や武器鑄造工場を建て、製造局、貨幣鑄造組織をつくった<sup>16)</sup>。そして、即位し年号を嘉隆（1802～1819年）と定めると、職人を京都フエに一堂に集め、工部、内圖家、外圖家が受け持つ形で各匠局を形成した。王家は嘉定の製造局を維持し、フエと北城で貨幣鑄造を進めた。また、フエに造船工場を建設し、磚製造の中国人専門家を雇っている。

明命期（1820～1840年）になると、官廠（すなわち国家の手工業生産工場）組織モデルが大きく変化した。より管理が厳重になり、京都フエに集中するようになったのだ。明命、紹治時代の官廠の成功は著しかった。この時期に、蒸気船造船の成功、水力を使った火薬の調合、挽材の排出、多くの新種の貨幣の出現などがおきている。

嗣徳期（1848～1883年）時代、軍事政治の複雑なパフォーマンスと、1858年以降の改革の風潮が官廠に大きく影響し始めた。王朝は民衆に機械技術に注意を向けるよう喚起し、職人を新たな技術を習得するため海外へ出そうとしたが、失敗に終わった。官廠の活動は、質の面で大きく低下している。

1884年以降、フランス人が官廠を“監視”する権利を得た。匠局の数は阮朝初期の95から67にまで減った<sup>17)</sup>。ある職種は消滅し、また新しい技術と共にフランス人の工場へと形を変えた工場もあった。例えば、龍壽（Long Thọ：フエ市陽春社）の石灰工場がそれに相当する。

#### 2.3.1.2 阮朝の官廠の管理と組織

手工業職人の組織には、二つの形式があった。

匠局は職人を集めるための基礎組織であり、職種ごとに分けられていた。フエの匠局は、国家に徴集された民衆の中の腕の良い職人から成っていた。徴集は工部によって、健康状態や手先の器用さなど様々な形式で行われた。彼らは兵隊のように組織され、任期が終わるまで奉仕しなければならなかった。手工業職人はフエに集められ、特に嘉隆後期から明命の初頭にかけて多くの職人がフエに存在し、95の匠局に分けられた。各匠局には正副知事、匠目と匠益がいた。匠益は直接雇用される職人で、階級ごとに（1851年に7,277人）、分けられていた<sup>18)</sup>。匠局は工廠での生産活動、地方への技術移転、また材料の買い付けなどを行っていた。匠局は単独で生産を行える場合もあれば、より大きな生産工場の一部であるこ

15) Nguyễn Văn Đăng, *Quan xưởng ở kinh đô Huế từ 1802 đến 1884*, Luận án Tiến sĩ Sử học, Trường Đại học Khoa học xã hội và nhân văn, Đại học Quốc gia Hà Nội, lưu ở Thư viện Quốc gia Việt Nam.

16) Nguyễn Văn Đăng, “Các quan xưởng ở Nam Bộ thời Gia Long”, *Huế xưa và nay*, Số 54, 2002, 58-63頁.

17) Phan Thanh Hải, 2003 “Về các quan xưởng và thợ thủ công của triều Nguyễn sau ngày 5/7/1885”, *Huế Xưa và nay*, Số 56, 64-68頁.

18) Nguyễn Văn Đăng, 2001 “Tổ chức tượng cục thời Nguyễn”, *Huế xưa và nay*, Số 44, 55-66頁.

ともあった。

司は匠局より上位の管理組織であった。各司はある特定の数種の製品の生産を担っていた。工部の管理を受け、工場で働く職人の管理を行っていた。それぞれの司に属す職人はそれぞれ近い職種を持ち、生産を連結して行うという、協力体制のような性格を持っていた。95匠局の職人の管理がしやすいように、阮朝は各匠局を集め司とした、フェには三つの司があった。

- 製造司：1829年武庫により設立される。この司は57匠局から成り、2174人の職人が属していた（1851年）。この司は三つのグループに分けられている。重材料等に関連するグループ、建設材料生産と建設のグループ、そして宮廷内での日用品を生産するグループの三つである。
- 褻慎司：1829年内務府によって設立される。この司は繊維系の13の匠局から成り、王や役人、兵士に衣服を提供した。534人の職人が属していた。
- 営繕司：1837年木廠が正式に設立した。造船に関わる2匠局（*kiên chu*と*thiện chu*）と木工芸に関わる7匠局を管理していた。この司に属する職人はとても多く、4569人もいた<sup>19)</sup>。

職人たちは、匠局と司の二つの級によって管理され、各工場で生産活動をしていた。製品の種類に基づき、フェにおける阮朝の官廠を以下のように分類することができる：貨幣鑄造、武器製造、造船、宮廷内日用品生産、磚製造、建設用の陶器製造。

官廠の管理には、多くの機関が携わっていた。工部は生産過程におけるあらゆる工程を直接的に管理していた機関である。戸部、兵部、内務府、武庫、都察院、承天府も“会同弁事”の原理に従い、阮朝国家機関の活動システムの中で、共に管理、監察を行っていた。フェの官廠は、司、局、工場、工廠の体系が完備されていたこと、また国家中央機関や各部（省庁）に直接管理されていたことから、国内で最も厳重に管理され、最も象徴的かつ集中的な組織であったといえる。

### 2.3.1.3 手工業官廠の活動

貨幣鑄造については、トゥア・ティエン・フェには二つの貨幣鑄造を担う工廠があった。

寶化京局が1820年に設立され、1887年には通寶專衙と改められ、それが1945年まで存在した。この局は、各種銅製貨幣と亜鉛製貨幣を鑄造し流通させること、また鑄造する貨幣を規定するため貨幣の鑄型を製造することを担っていた。

金銀鑄造局は1834年に内務府に設立された。この局にはハノイで選出された100人の職人が属していた。貯蔵と流通のため金銀の棹銭を鑄造することは非常に重要であった。金貨、銀貨は賞与として贈呈するために鑄造された。阮朝における金貨、銀貨の鑄造と流通は、それ以前の各王朝に比べ格段に進んだ。ハノイの寶泉局と共に、フェの2局が当時の通貨流通の需要にんでいた。

### 2.3.1.4 武器製造について

阮朝は全国各地に武器を製造する工廠を設置した。フェには三種類の工廠があった。京城の装飾に使

19) Nguyễn Văn Đăng, 2002 “Tổ chức và quản lý quan xưởng của triều Nguyễn”, *Nghiên cứu và phát triển*, Số 1 (35), 89-102頁.

われる銃身工（大きな火炮）は、三カ所で鑄造された。銅場（Trương Đồng）地域（鑄坊、1803年）、武庫（1821年）、そして陽春（1847年）である。全て合わせて24口あった。

嘉隆帝時代、武器を製造する場は鑄坊であった。1815年、武庫工場が京場内に設立された。これは阮朝時代、ベトナムで最も大きな官廠であった。武庫工場で生産される製品は非常に多種多様であった。例えば、火炮、拳銃、各種弾、盾、槍、鉄釘、火薬実験、火打石、刀などである。全体的に見て、その技術は未熟であった。

火薬を製造する工廠は、阮朝によってベトナム中部各地につくられた。特にフエには7つの工廠があり、そのうち、ポー川、香河の川沿いに位置する6つの工廠で火薬の調合に水力を用いる方法がとられていた。（“水火奇濟”と呼ばれる。）各工廠には150人から300人の兵士、数人の職人と民衆が集められた。

武器、火薬を製造する各工廠は大きく、西欧技術の模倣がされていた。多様な製品が生産されていたが、時間が経つにつれ膨らむ需要に要求しきれず、また質も低かったため、西欧の技術との格差は開くばかりであった。こうしたこともあり、阮朝の軍事力は弱かった。

造船については、フエで専用の各工廠が香河の沿岸、京城の前から清福社までの範囲に渡り建てられた。清福社には大きな裏銅船（thuyền bọc đồng）の造船工廠のひとつがあった。全部合わせて255所の各種船舶の製造、修理、保管を行う機関があった。

船御と船官は王朝、役人、皇族に仕えている。4～7丈もの長さがある皇帝の船が67隻もあった（1845年）。この種の船は繊細かつ華美に装飾が施されていた。裏銅船は、海上の移動、輸送のために用いる巨大船舶で（公幹、巡哨用）、清福で製造されている。4種類、20隻以上の裏銅船があり、この種の船の特徴としては、船体は木造で、銅張りを行ったもので、たくさんの帆柱を持ち、帆から出る紐にたくさんの小さな船がくくりつけられていることが挙げられる。裏銅船は、最も普及したタイプの船で、連絡船、大きな船の牽引船、また川での交通に使われる船も、この種に含まれている。

蒸気船は19世紀初頭に西欧で出現し、ベトナムでは明命時代にフエの工廠で試験的に3隻が製造され、成功した（1838年、1840年）<sup>20)</sup>。1844年にさらに2隻製造し、そのどちらも海外に売られた。嗣徳帝は度々職人を研修に出したが、あまり効果は上がらなかった。1876年にフランスが贈与した5隻も含め、16隻の蒸気船が当時のベトナムに存在している。

### 2.3.1.5 宮廷内日用品の生産について

フエには三つの大きな工廠があった。

内造工場はフエに早期から出現していた工場10棟から成り、非常に精巧な技術を以って宮廷内で使用される品々をつくっていた。フエの陶器、七宝などの特産品も生産された。

内務督工所は軽工業、特に繊維業に属す工廠であり、衣服を生産した。衣服は、儒教の儀式に沿って生産され、阮朝の威厳ある様を作りあげた。褻慎職人が責任を負っていた。

武庫工場には、武器の鑄造のほかに、金属器、木材、石材を用いて儀式用の品、基礎的な日用品、美

20) Nguyễn Văn Đăng, 2003 “Vài nét về ngành đóng thuyền theo kiểu phương Tây thời Minh Mạng”, *Huế xưa và nay*, Số 56, 58-63頁.

術装飾品などを生産する場所があった。これら製品から、ベトナムの職人の創造性や芸術的才能を見出すことができる。最も盛んだったのは明命時代で、990の古器と銅製の九鼎などが生産された。

阮朝は、フェに巨大な宮廷建築群を築き上げるため、工部、承天府の下、多くの建設材料を製造した。フェには二つの大きな工場があった。一つ目は現フオンヴィン社を中心とする瓦匠（Ngõa Tượng：旧地霊社の一部）、南清（Nam Thanh）、雲雷（Vân Cù）にあった磚製造工場、二つ目は龍壽の磚と施釉瓦を製造する工場である。この二つの工場が、19世紀の国内で最も大きい焼き物生産の中心であり、中国から施釉の技術を取り入れた。

以上まとめると、そう広くもないフェとその近隣の地域に、阮朝は20以上の生産工場（255の造船工場を除く）が建てられ、一つの製品が複数の土地で生産されることも、複数の製品が一つの土地で生産されることもあった。各工場の規模は大きく、数百人から数千人の労働者が集まって分業を行い、一人一人の労働者がそれぞれ異なる作業をする制度をとっていた。産出される製品はとても豊富で、君主国家の需要に応えられるようになっていた。多くの製品はその時代の特徴を持ち、ベトナム人職人の創造性とレベルの高い手工業の集大成であった。

### 2.3.2 民間手工業

19世紀に国家の手工業の基礎が大きく発展すると、トゥアティエン・フェの民間手工業も職種の面での発展が進み、工業村は、副業と工業村の二分野で一層専門化が進んだ。

#### • 副業的手工業

民間手工業は以前に増してより一層発展した。菅笠製造、紡織、編み細工など有名な工業も出現した。菅笠製造は、朝山、同寅、西湖、Phù Camなどの少数の手工業村のみに収まらず、省中の家庭の副業になるまでに至った。多くの村の女性や子どもたちが空いた時間や農閑期を利用して菅笠をつくった。紡織業で有名なのは、美利、山田、萬春、安留、楊弩などである。編み細工で有名な村は数多くある。野梨正（Dã Lê Chánh）村は篩（粉を入れる袋、家壁にしたり、干し場に使う網代）を生産した。包羅（Bao La）村は籠、小さな籠、箕、箕の一種（nong nia）、食卓用蚊帳などを生産した。またこの村では、Chùa 集落では蓑、Đình 集落では小さな籠、Hóp 集落では篩、Đông 集落では箕、Chợ 集落では篩といった具合に各村での専門がおこった。

#### • 専門的手工業村や坊

金細工、磚、螺鈿、茅や藁、漆、紡織、刺繍、鍛錬、鑄造、紙製造の手工業は著しく発展した。金細工については、薊門（Kế Môn：現豊田縣 Diên Môn 社）の金工村が出現した。南青の磚生産村は、広南、平定、定祥の各省からやってきた5人の職人によって築かれた<sup>21)</sup>。茅や藁を生産する村には Sinh 村（富榮縣富青社）がある。Ngõa Tượng（瓦匠）集落（現 Hương Vinh 社 Địa Linh）には“行局”という組織があり、磚を製造し、宮廷に仕えなくなってからは民間に販売した（本紀要、西村歴史地理論文参照）。福積の陶器、符碑の鉄の鍛造、賢良と鑄坊の鉄鍛冶は17、18世紀に出現し、19世紀から20世紀初頭にかけて大きく発展した。フェで製紙業を行う篤初（Hương Sơ 坊）は専門的に各種の紙を製造し、朝廷、民

21) Nguyễn Hữu Thông, 1994 *Huế nghề và làng nghề thủ công truyền thống*, NXB Thuận Hoá, Huế, 144頁.

間両方の需要に応じていた。フエ市内では錦繡（Cẩm Tú）通りの刺繍、螺鈿、漆、彫刻が発展した<sup>22)</sup>。

この段階の多くの手工業は労働力を雇用して行われており、埴製造や陶器製造に見られるように専門化が起こるほどに分業体制がとられていた。埴製造や陶器製造の過程は、胎土をこねる部署、成形を受け持つ部署、窯焼きをする部署といった具合に分かれていた。

20世紀初頭、“南工匠局”を組織し、鋳坊が新たな鋳造業の発展の道を歩み始めた。ここでは、総督委員会が労働者の雇用を担い、主人と雇われ職人という関係が出現した。

1802年から1945年までのトゥアティエン・フエの手工業は明確な発展を遂げたといえる。その発展は次のように起こった。生産組織のレベルは格段に上がり、規模も大きくなった。500～600人の職人が集う生産センター、1000人ほどの職人が集う手工業工場も出現した。これは後のフランス植民地時代の工場ほどの規模で、労働分担、専門化もより一層進んだ。職人はそれぞれ個別の作業に熟達し、より技術が向上し、より精巧な作業が可能になったので、製品の質は向上した。

生産技術レベルも一層向上した。武器鋳造、造船の分野で機械技術が出現した。多くの美術品的手工業の中で、職人たちは自らの製品を有名な工芸品へと変え、阮朝の役人、貴族たちの優美な生活に貢献した。

フランスが植民地化を成功した後、第一次植民地開発（1897-1914年）、第二次植民地開発（1919-1939年）が始まり、トゥアティエン・フエの手工業は複雑に変動した。多くの工業品はフランス製品との競争に勝つことができず、消滅してしまった。しかし、何とか継続したものもあったし、美術工芸品などは消費者の増加により返って発展した。フランスが工業生産技術をベトナムに持ち込むと、トゥアティエン・フエの手工業は通常の開発が続けられなくなり衰退し、製品数も生産範囲も縮小した。

### 3. トゥアティエン・フエの手工業に関する考察

#### 3.1. 組織や生産システムについて

トゥアティエン・フエの手工業には、ベトナム全土における手工業と同一の特徴があり、三つの部分で行われていた。農民の副業を指す家庭内手工業、村や集落での専門手工業と国家の手工業である。

家庭内手工業は自然経済、自給自足の生活の中の必要性から生まれた。これはトゥアティエン・フエのみならず、ベトナム全体においても一般的な形式である。家庭内手工業の活動は、農民の生活上の需要に応えるもので農業を助けていた。ここではまだ手工業は独立した経済部門ではなかった。職人は農閑期の農民であった。生産者は、生産者であると同時に主要な消費者でもあり、少しばかりの余剰分を近隣の村人と交換していた。

村、市場、通りに矮小な専門手工業が出現したのもベトナム全土における現象と同じである。職人は農業から離れ、交易するための商品を生産し、自ら消費することはなくなった。専門手工業村が出現し、ある特定の製品を生産するようになった。トゥアティエン・フエにはこのような村が48存在した。各村の中では、数百もの家庭がその一製品の生産に従事していたが、彼らは個々に作業をし、その規模は家

22) Nguyễn Văn Đăng, 2005 “Tác động của quan xưởng đối với đô thị Huế, Huế xưa và nay, Số 72, 78-84頁.

庭内に収まった。都市部や港町はたくさんの手工業が集まる場所であり、工業坊、工業村を形成していた。サイゴン、ハノイ、富春（フェ）は、どの都市も多くの伝統的な手工業が集中した都市であった。各手工業で多かれ少なかれ、人が雇われるようになった。彼らは修行という形式で月、季節、年毎に雇われた。技術を持った職人は、郷を離れ別の地で仕事を始めることもあり（賢良村の“Hàng kinh”や Ngõa Tượng 集落の“Hàng cục（行局）”といった組織を通じて）、ある手工業の生産範囲を拡大することができた。

サイゴン、タンロンやその他の大都市と同じように、フェが正宮、王府、京都であった17～19世紀にトゥアティエン・フェの国家手工業も大きく発展した。特に19世紀においては、ベトナムの封建王朝全ての国家手工業の様々な形態が、最も集約的かつ象徴的に都フェに存在していた。封建王朝は、全国の腕の良い職人を徴用し都に集め、経済、政治、国防の需要、そして宮廷の生活、都の建設に貢献させた。トゥアティエン・フェの職人も同じように徴用された者たちであり、彼らは阮朝のほとんど全ての手工業に関わっていた。

### 3.2. 生産過程について

ベトナムの手工業の発展と同じように、トゥアティエン・フェの手工業も社会の中で労働を分担することによって大きく成長した。形成期には、手工業は農村と密接に関連していた。それからだんだん職人が農業から離れ、専門的に工業品生産を行うようになる。工業村から、生産過程の一つずつを独立させ、分業するという現象が始まった。単純な協力体制から分業体制に至るまでが手工業工場にて出現し、その中には様々な立場の職人、すなわち研修生、相弟子、職長などがいた。職長は共に生産を行い、共に働く者たちに賃金を支給した。しかし、重要な作業は職長が担当した。彼らは材料を仕入れ、労働者を雇い、製品を販売した。手工業は国内や対外との商業を發展させ、封建制度の中、資本主義という考え方を出現させる要因となった。しかし、それは、日本を除いて、東洋の封建専制制度の中で抑制的な存在であった。

### 3.3. トゥアティエン・フェ手工業の独自の特徴について

トゥアティエン・フェの手工業は、ベトナムの手工業に比べて形成が遅かった。ベトナムの手工業の歴史は長く、9、10世紀から、民間手工業と国家手工業という二つの形式で多くの手工業が行われてきた。14、15世紀になると、ベトナムの手工業は繁栄し、生産技術は非常に精巧なものであった。大きな手工業生産の中心が、農村と都市部の両方に建設された。その頃、トゥアティエン・フェの手工業は、わずかな手工業が農村で細々と行われていただけだった。そして、14世紀になってようやくフェが大越の土地になったことによって変化が起こった。大越の人々が序々にこの地に移り住み、手工業が彼らの新しい生活に大きく貢献したのだ。

トゥアティエン・フェの手工業は非常に速い速度で發展を遂げ、ベトナムの手工業のように長い發展過程を経なかった。トゥアティエン・フェの手工業は、形成からたった一世紀と少して繁栄期を迎えた。17、18世紀にはベトナムの手工業の水準に追いついていた。19世紀に彫刻、七宝、漆、刺繍などといった手工業が盛りを迎えた。特に造船についていえば、まだ他のベトナム国内のどこもその技術を持って

いない時期に、動力船を造ろうとして西欧の船を模倣していた。

美術工芸品は特別発展し、芸術、美術的価値の高い製品を造り出した。例えば、皇城に残る大型青銅製鼎（*vac đình*）、砲身、そして現在にもなお残る建設物の数々などである。トゥアティエン・フエの美術工芸品には、ベトナム、チャンパ、中国、フランスの技術要素が混在していた。鑄造の外国人専門家、ポルトガル人父子（*Jiao da Cruz*）の貢献があったり、中国から七宝について学んだり、また龍壽の工場で高級な樽を製造するため中国人職人河達和（*Hà Đạt Hòa*）を招いて黄色瑠璃や青色瑠璃などの施釉技術を学んだりもした（本紀要チャン・ドゥック・アイン・ソン論文参照）。

しかしながら、フエはいまだかつてベトナムの経済中心地となったことはない。そのため、このような高度成長があったにも関わらず、トゥアティエン・フエの手工業は国内、王、皇族などに製品を提供するだけに過ぎず、舗憲（*Phó Hiến*）や会安（*Hội An*）のような商業的要素は見られなかった。そのため、富春（フエ）はハノイやサイゴンのように、商品経済の発展により農業から離れて独立することはできなかった。

このような特徴から、トゥアティエン・フエの手工業の特徴は、フエの物質的文化の基礎を築くのに特別で重要な位置を占めていたことが見受けられる。この貴重な物質的文化こそが、世界に誇るフエの文化遺産遺跡群をつくりあげたのだ。

現在、フエには文化遺産と非物質遺産や伝承文化の二つがある。しかし、関連する遺跡や遺物は時間による損壊の被害を受けている。特に、金箔、彫刻、刺繍、銅の鑄造、七宝、陶器製造などの美術手工芸品に関わるフエの文化遺産などは著しい。そのため美術手工芸の復興問題は、現在日に日に劣化の進む遺産群の建築芸術の保存、修復事業にも繋がっている。それは遺産の価値を發揮させ、フエの文化的特色を保存することが目的である。それ以外にも、美術手工芸の復興は経済効果も期待され、観光客へのサービスにもなり、トゥアティエン・フエの経済発展に貢献できる。

遺跡の修復と同時に、伝統手工業の近代化も進めなければならない。それは手工業村の経済発展を進めるためであり、また現在の経済の工業化、現代化の方針に合わせることも繋がるからだ。精巧で現代的な製品を生産することで、消費、輸出、観光の需要に応えることができる。

#### その他参考文献

Nguyễn Đình Đầu (1997), *Nghiên cứu địa bạ triều Nguyễn, Thừa Thiên phủ*, NXB Tp. Hồ Chí Minh.

Phan Khoang (1967), *Việt sử xứ Đàng Trong 1558-1777*, NXB Khai trí, Sài Gòn.

Phan Thuận An (1999), *Kinh thành Huế*, NXB Thuận Hóa, Huế.

『烏州近録』：翻訳版，1961，Ô châu cận lục，Dương Văn nhuận sắc & tập thành，Bùi Lương 訳，Văn hóa Á châu XB，Sài Gòn.

『欽定大南会典事例』：Nội các triều Nguyễn (1993), *Khâm định Đại Nam hội điển sự lệ*, Bản dịch Viện Sử học, 15 tập, NXB Thuận Hóa, Huế.

『大南寔録』：Quốc sử quán triều Nguyễn (1962-1978), *Đại Nam thực lục*, 38 tập, Bản dịch, NXB Sử học (Khoa học, Khoa học xã hội), Hà Nội.

『大南一統志』：Quốc sử quán triều Nguyễn (1992), *Đại Nam nhất thống chí*, Bản dịch, Tập 1, NXB Thuận Hóa, Huế.

